

CASBEE®名古屋

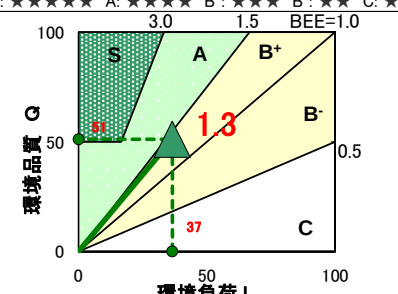
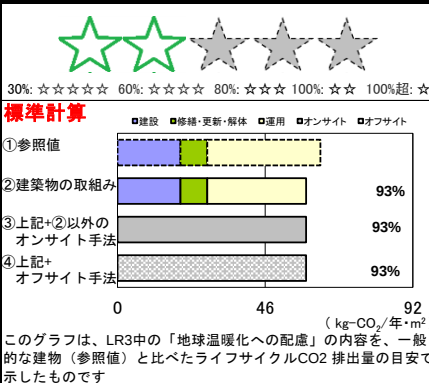
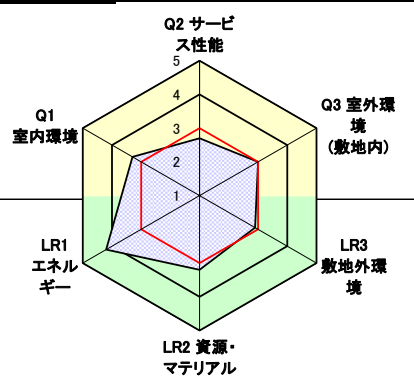
評価結果

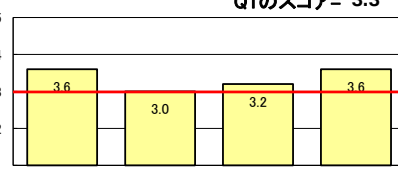
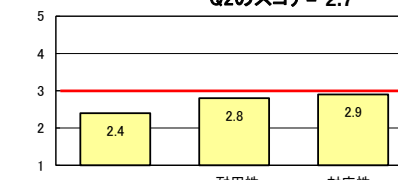
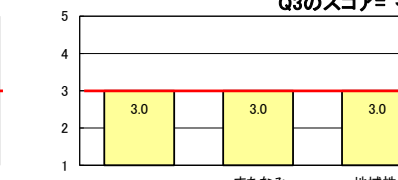
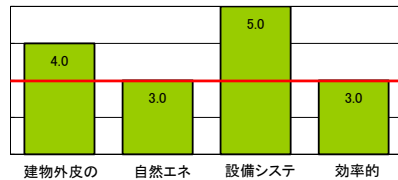
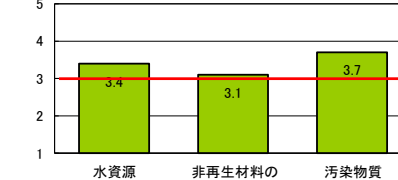
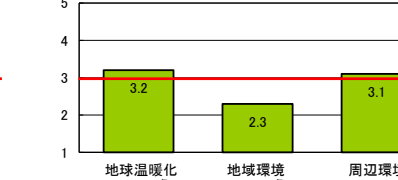
■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム7.0版、省エネルギー等に関する評価項目の追加について ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)西区坂井戸町計画 新築工事	階数	地上10階
建設地	愛知県名古屋市西区坂井戸町127番	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域・準防火地域	平均居住人員	97 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年10月 予定	評価の実施日	2024年7月29日
敷地面積	847 m ²	作成者	
建築面積	306 m ²	確認日	2024年7月29日
延床面積	2,305 m ²	確認者	

外観パース等

図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE=1.3 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★ 	 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外の オンサイト手法 ④上記 オフサイト手法 このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO ₂ 排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q のスコア= 3.0		
Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.3 	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.7 	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 3.0 
LR 環境負荷低減性 LR のスコア= 3.5		
LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.2 	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.2 	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.9 

3 設計上の配慮事項	
総合 社会の良質なストックとなるよう躯体の耐久性を高め、CO ₂ 排出量の削減に努めるなどして、ライフサイクルを通して環境負荷低減を目指しています。	その他
Q1 室内環境 遮音性能の高いサッシや床構造の採用などにより室内環境の快適さの確保に努めています。また、全般的にF☆☆☆☆の内装仕上げ材を用い、化学汚染物質による空気汚染を回避しています。	Q2 サービス性能 給排水管は更新必要間隔の長い配管を使用したり、掃除口を適宜設置したりすることで維持管理しやすい設計としています。
Q3 室外環境(敷地内) 連続する塀ではなく見通しの良いフェンスを採用したり、照明灯を適宜設置したりすることで防犯性に配慮しています。	LR1 エネルギー LED照明や潜熱回収型の給湯器など、高効率設備の導入により、環境負荷の低減に配慮しています。
LR2 資源・マテリアル 躯体と仕上げ材が容易に分別できる材料としています。	LR3 敷地外環境 十分な台数の駐車場・駐輪場を設けています。また外部に漏れる照明について、点滅させたりしません。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)西区坂井戸町計画 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.8
LR1	エネルギー	4.2	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.2	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.1
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.8



2. 自然共生

評価点 = 2.9



3. 循環型社会

評価点 = 3.1



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。